

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業堰整備を中心とした農業環境改善による農家の収入安定 農業堰の整備と水路の整備が終了し、年間を通して安定した農業用水供給が可能になった。今年の雨季の作物に関して、堰からの水が来ないために農業ができなかった農家はゼロであった。 ・ 循環型農業技術普及による農家の収入向上 本事業で循環型農業技術研修を 531 名に行ない、現在実践している農家は 20 軒ある。また、研修に参加した地元の農家が木酢液の販売を始めている。気軽に買って使えるため、ほとんどの農家が木酢液を使用するようになった。現在ホテルや小売店において有機作物は平均通常の 1.2 倍の価格で販売されているため、今後農家の収入向上が期待される。
(2) 事業内容	<p><u>1. 農業堰整備</u></p> <p>①キントウ堰の周囲全長 6,500 フィート (1981.2m) の堰の高さを 2 フィート～5 フィート (0.61～1.52m) 高くする。 申請の段階では、4,500 フィートの堤整備であったが、詳しい調査の結果、水位が上がった際に一部 4,500 フィートを超える部分で堤防よりも低くなる箇所が見つかったため、すべてをカバーできる 6,500 フィート分の堤整備を行なった。</p> <p><u>2. 維持管理体制づくり</u></p> <p>キントウ堰から農業用水を利用する農民による堰管理基金を作り、堰管理委員会が堰を維持していく仕組みを作り、村の共同農園からの収穫物販売による基金を他の村落開発事業に利用できるようにした。</p> <p><u>3. 循環型農業の普及</u></p> <p>農業堰整備後、農民に対して、土着菌堆肥、ボカシ肥や木酢液を使用し、自然の力を利用した持続可能な農業である「循環型農業」の研修を実施、普及。</p> <p><u>4. モニタリング</u></p> <p>当会スタッフによる週 1 回の建設作業進捗状況チェック、専門家による建設の進捗チェックや指導、本部担当者（大野）による施工完了時の確認を行った。専門家に関しては、日本人エンジニアによる全 3 回のチェック・指導、ミャンマー人エンジニアによる重要な工期 5 ヶ月間の現場監督を行った。また、ミャンマー政府国境省との定期的な打ち合わせを行い、維持管理体制についてアドバイスを行った。</p>

(3) 達成された効果	<p>① 堰の貯水能力が上がり、周辺農民が、現在農業ができていない乾季（約半年）も含め1年を通じて農業のための十分な水が得られることになり、収入が安定する。 ⇒今回の修繕で、堰が平均4フィート(約1.2m)高くなったことにより、堰の貯水能力は向上した。農業用水利用世帯の増加と収入の安定は今後の経過による。</p> <p>② より多くの農民が農業用水を利用し農業ができるようになる。 ⇒現時点で、農業用水を利用できる農民が488世帯から900世帯に増加した。(世帯数と人口は延べ、委員会への聞き取り調査による)</p> <p>③ 堰の修繕に使用していた基金を他の村落開発事業のために使用することができ、村の生活環境を改善することができる。 ⇒堰修繕のために新たに「堰管理基金」を設け、徴収を開始している。現在65万チャット(約6万5千円)が徴収されており、今後とも引き続き徴収を進め、堰修繕費用は基金より賄うこととする。現時点で、堰管理に使われていた村落開発基金は、道路整備のために使用される予定である。</p> <p>④ 循環型農業技術を習得し、付加価値のある農作物を栽培できるようになる。</p> <p>⑤ 循環型農業モデル地域となり、周辺地域に循環型農業を広めることができる。 ⇒循環型農業研修は、合計13回、総勢531名に対して行い、現時点で実践している農家が20軒ある。</p> <p>⑥ 収入が向上することで、子どもの就学や栄養の問題、若者の出稼ぎ問題に改善が見込まれる。 ⇒今後、配水が順調に行なわれることで収入が向上していくこととなる。現状では、地域住民から「貯水量が安定し、十分に配水も行なえるようになったため、今後の生活が安定すると思う」という声がかかっている。</p>
(4) 持続発展性	<p><持続性> 今後の維持、継続は地域の開発を担う互助組織である「Head of ward and village tract」を中心として、堰管理委員会が責任を持つ。維持管理のために、委員会による定期的な堰の見回りを行い、必要な場合は堰管理基金によって修繕を行なう。堰管理基金は、堰管理委員会を通じて既に徴収が開始されており、2012年7月6日現在、約6万5千円の基金が集まっている。委員会は最寄の都市タウンジーに銀行口座を開き、堰修繕が必要な場合にはそこから基金を引き出して修繕を行なう。2012年8月後半時点で、堰管理委員会はこまめに見回りを行っており、雨季あけに補修すべき箇所をピックアップしていた。</p>

	<p>ミャンマー政府農業灌漑省・灌漑局から引き続き指導をいただけることも同意済みで、必要な場合は灌漑局のオフィサーが現場チェックや指導にあたる。</p> <p><発展性></p> <p>事業終了後に行なわれる予定である今まで堰の水を利用できなかった各田畑への配水は、堰管理委員会を中心として実施する。委員会は数回にわたる会議の末、どのように水路を延長させると効率がよいかということを決定し、今後住民と共に実施する予定である。循環型農業に関しては、研修終了後、既に循環型農業の手法で実際に栽培を始めた農家もあり、今後の波及効果が期待できる。</p>
--	---